学　校　だ　よ　り

1月号（第05－10号）

令和 6年1月26日
横浜市立高田中学校
校長　横田　由美子
TEL：５９１－４１８３

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年早々、能登半島地震や羽田空港での事故など、痛ましいニュースが入り、年頭からの大きな災害や事故に胸が痛み心がざわつきました。親戚や知人が北陸におられる方はさぞかし心を痛められたかと思います。被害に遭われた方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げると同時に、一日も早く現地に日常の生活と安心が取り戻されることを願います。

復旧に長期間を要する見込みが報告されている中、子どもたちの学びを止めないようにと、輪島市では生徒の半数以上にあたる約 250 名の中学生が県南部の白山市に、同様に珠洲市、能登町からは合計約 140 名の生徒が金沢市内の施設に集団避難をしました。限られた情報の中で短い時間で判断し集団避難を決めた生徒たちはどんなに辛くて心細かったことでしょう。被災者の支援や学習の支援をきめ細かくおこなってほしいことはもちろんのこと、できる限り、いえ、それ以上のことをしてあげてほしいと思います。地元に残ることをきめた中学生たちも、ようやく再開された学校生活を仲間たちと大切に豊かにしていってほしいです。

始業式の日、生徒たちには、被災地の避難所の仮設託児施設で、自分自身も被災者である中学生たちが小さい子どもたちの相手をして小さい子どもたちや保護者のストレスをやわらげていることや、給水場所から何往復も重たいペットボトルや給水バッグを運ぶことで大変戦力となり皆を支える希望となっている話をしました。高田中に在籍の生徒たちには東日本大震災の記憶が直接にはほぼ無いと思います。それだけに、今回の元日に起きた衝撃的な事象は一人ひとりに大きな驚きを与え、はからずも、自分ならどうするか何ができるのか、自らに問い考える時間にもなったのではないかと思います。

関東圏の私たちは幸いなことに新しい年をいつものように始めることができました。

あらためて、当たり前の生活があることに感謝し、今ある普通の幸せをかみしめながら、生徒たちがこれからの未来に向けて必要となる力を主体的に身につけていけるよう、我々大人たちも努めていきたいと思います。

【マルちゃんとオリジナルカップ麺をつくろう！～だしの秘密～】授業　１年総合　１月18日（木）

東洋水産（株）の方にお越しいただき、格技場でキャリア教育「オリジナルカップ麺のパッケージを作ろう」の講話が行われました。今回の第１回目では「だしの秘密」についてのお話でした。東洋水産（株）様が現在販売している「赤いきつね」が４つの地域に合わせた味で販売されていること、海外では、麺を短くして味を薄くするなど日本とは異なる形で提供されていることなど様々な内容が紹介されました。生徒たちは日本の食文化の基礎である「出汁」について深く学び、旨みを感じる仕組みや出汁の役割、地域による違いについて理解を深めました。

今後の約１年間、美術の授業や総合の時間を通じて、東洋水産（株）様のご協力を得ながら、生徒たちは自身が考えるオリジナルカップ麺のパッケージ作りに取り組む予定です。商品コンセプトから商品デザイン検討、プレゼンテーションまで、商品開発の一連の流れを学び、実践的な体験学習に取り組んでいきます。生徒たちが主体的に考え、創り上げるこのプロジェクトにご期待いただき、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。（第１学年主任　　田村　美喜雄）

【電子マネーから学ぶ、キャッシュレスと経済の仕組み】授業　２年家庭科　１月24日（水）

NPO 法人企業教育研究会、楽天ペイメント（株）、ソニー（株）と連携して「電子マネーから学ぶ、キャッシュレスと経済の仕組み」の授業を実施しました。授業の狙いは「キャッシュレス決済の技術・経済的な理解をし、消費者として判断基準をふやす」ことです。

冒頭、紙幣や硬貨を使わずに支払うには何があるかを皆で考えましたが、生徒たちはなかなかの知識量でびっくりしました。キャッシュレス決済ではお金に関する記録をやりとりしていること、「前払い」「即時払い」「後払い」など決済のタイミングについて、「非接触型決済」「カード決済」「バーコード決済」「生体認証」など様々な決済方法について等々、キャッシュレスについて３人の外部講師から学び、その後グループワークを通して、「利便性や価値は？」「様々な人にどんないいことがある？」を話し合いました。グループワークではグループのパソコンからスライドに協働編集（同時に書き込み）をしあい他者参照（お互いの意見を確認しあう）しながら学び合いをしました。成人年齢も引き下げられた中、デジタル化社会の消費者として賢く暮らしていってほしいです。

【5，6組　合同学芸会】１月２５日（木）

西公会堂で合同学芸会が開催されました。高田中は「にじいろ」という曲に合わせて「手影絵」の取組を発表しました。「にじいろ」は「人生には嫌なことも楽しいこともあり、様々なことを乗り越えて、人は強くなっていく。その道でかけがえないものを手にしていくはず。辛い過去を気にするのではなく、これからを大切にして、輝かしい自分の未来をつくっていく」という内容の曲です。手や指が生み出す様々な動物の子ども達や親たちの細やかで柔らかで優雅な表現には、これまでの努力とこめられた思いを感じました。昨年と比べ、身体の成長に伴い影絵の鳥の羽が大きくなっている生徒もいました。一人ひとりが丁寧に動物の形や動きを影で作るだけではなく、仲間と交差しつつ影絵を重ね合わせたりタイミングを合わせたり頭がでないようにしたりと、生徒たちは当日に向け、何か月もかけて何度も何度も練習を重ねていました。仲間と協力して一つのものを作り上げる喜びや自分の役割をきちんと果たすことの大切さなど多くのことを学び、また、他校の多くの観客の前で、これまで頑張ってきたことを立派に演じきることで自信につなげることもできたのではないでしょうか。

【その他】

・あいさつ運動

１月２２日（月）～１月２６日（金）　8:05-8:20

２学年の学級委員会が中心となって生徒昇降口付近であいさつ運動をおこないました。

来校される方たちから「高田中の生徒さんは気持ちの良い挨拶ができますね。」と嬉しい言葉をいただくことが増えています。いつでも、どこでも、場に応じた気持ちのよいあいさつができる、そんな人でありたいですね。

・手洗いイベント

１月２２日（月）～２４日（水）で　手を洗った人数の割合が多かったクラスを表彰する保健委員企画がありました。コロナが５類に移行して意識が少し薄くなりがち、寒くなって水で手を洗うと冷たい・・・・そんなタイミングにとてもタイムリーなセンスを感じる企画でした。これからも手洗いで感染症予防をしっかりしましょう。

・高田中リーディングDXスクール専用ページ情報

高田中学校は本年度のリーディングDX スクール推進校（文科省事業）です。ICT は使うことが目的ではなく、使うことで「主体的･対話的で深い学び」の実現とそれによる広い意味での学力の向上、また校務改善により生徒や自分を高める時間の創出を叶えるためのひとつのツールととらえています。高田中学校 HP の専用ページでＩＣＴを用いた日常の高田中学校の学びの様子を月 1～3 回のペースで簡単に紹介しています。下の QR コードからご確認いただけます。

０１ Chromebookを活用した器械運動の記録と評価

生徒が提出した、生徒にとって一番できの良い動画を評価できます

０２ 個別最適な学習を促進するためのAIドリルの活用

０３ 自宅からも

教員の評価やコメントをリアルタイムに参照できる

０４ 提出物にその場でコメントや解説・評価ができるライブ感を持った授業

０５ 社会にひらかれた学び（企業連携）

企業のプロや、プレゼンのプロの支援を得てオリジナルカップ麺作り

（コロナ禍においては、商品発表会は全教室と東洋水産本社・工場各地をZoomで繋いで実施しました。）

０６ スプレッドシートを共同編集して献立作り

０７ 端末持ち帰り開始にあたってのデジタル・シティズンシップ教育

・放課後学習会

大学生などに教わりながら落ち着いて学習できる場です。お試し参加もお待ちしています。
高田地域ケアプラザやゆずの樹は、部活動のあとや、一度家に帰った後に
来ることも可能です。

R5 年度企業委託形式放課後学習会の今後の実施予定

【毎月第２、第４火曜日】

於 高田地域ケアプラザ　２月 13 日

於 ゆずの樹　２月 6 日/20 日

【定期テスト前】於　高田中図書館　２月 13 日/14 日（1，２年生対象）

【参加申込み方法】申し込みフォームリンクか QR コードから お申し込みください。

【申し込みフォームリンク】https://forms.gle/6th2yZX3bDiTS2B87